

# 富浦地区学校再編に関わる地区説明会（保護者対象） 会議録

日時 令和8年3月12日（木）

午後7時00分から午後7時57分まで

会場 富浦中学校体育館

## 【当日関係者】

参加者	21人
検討委員	17人（1人欠席）
オブザーバー	3人
事務局	11人（2人欠席）

## 1 開会

進行 皆様、こんばんは。

定刻となりましたので、始めさせていただきます。

本日は大変お忙しい中、また、お疲れのところ、御出席をいただき誠にありがとうございます。

本日の進行を務めます、教育委員会事務局学校再編整備課長の鈴木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

説明会に入る前に、1点お願いがございます。会議録作成のため、録音をさせていただきます。本日の会議録は、発言者のお名前を伏せた状態にして、ホームページに掲載したいと思いますので、御了承いただきますようよろしくお願いいたします。

続きまして、お手元に配付しております、資料の確認をお願いします。

まず、「説明会次第」。

次に、「令和7年度 富浦地区学校再編検討委員会委員名簿」。

次に、本日の「席次表」。

次に、資料1「富浦地区学校再編検討委員会の検討状況」。

次に、資料2-1「富浦地区小中学校保護者対象のアンケート結果について」。

資料2-2として、「意見記述内容（要約）」。

次に、資料3「令和8年度 南房総市小中学校 児童・生徒数見込み（富浦地区・富山地区）」。

最後に、参考資料1・2として、過去に富浦地区で開催された説明会の質疑応答の要約資料で、検討委員会で配付されたものをお配りしております。

資料は以上の9種類となります。

不足等はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ただ今から、富浦地区学校再編に関わる地区説明会を開会いたします。

## 2 委員長挨拶

進行 次第の2、委員長挨拶。

穂積委員長、お願いいたします。

委員長 皆様、こんばんは。

今日一日の仕事を終え、夜分お疲れの中、また、年度末の大変お忙しい中、この説明会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私ども富浦地区学校再編検討委員会では、令和5年11月に第1回目の会合をもちまして、約2年間、この富浦中学校と富山中学校との再編につきまして、統合するのか、あるいは統合しないのか、その方向性について今日まで協議を重ねてまいりました。

子どもたちの将来に関わる教育環境を考えたときに、学校再編に関してどのような選択をすることが、子どもたちにとってよろしいのか。そうした会議を中心として重ねてまいりましたが、現在の統合案について、保護者の皆様方から疑問や懸念も根強くあり、なかなか結論が見出せない状態でした。

そうした中、今年に入りまして、1月7日に開催いたしました第7回目の会議におきまして、保護者代表の委員の方から、アンケート結果の報告がございました。PTAの皆さん方が大変時間をかけて、このアンケートを取りまとめていただきました。その結果は、統合の賛否が拮抗しておりまして、少し反対が多いというもの

でございました。

この後、事務局からその内容について説明がありますが、私ども富浦地区学校再編検討委員会といたしましては、その判断は、富浦中学校の再編についての結論を一旦保留とするというものになりました。

本日ここに説明会を開催したのは、富浦中学校と富山中学校の統合について、保留というような判断をしました経緯を御説明するため、これまでの学校再編検討委員会の検討状況、そして保護者アンケートの結果、また、今後についてお伝えするための会といたしたところでございます。

質疑・意見交換のお時間をこの後設けてありますので、皆様からの御意見など、お寄せいただければ大変ありがたいと思っております。

今日はどうぞよろしく願いいたします。

皆さん、寒い中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

### 3 教育長挨拶

進行 続いて、次第の3、教育長挨拶。

三幣教育長から挨拶を申し上げます。

教育長 こんばんは。御出席いただき、ありがとうございます。

今日の会議の趣旨につきましては、今委員長のほうからあったとおりであります。教育委員会として、いくつか皆さんに申し上げます。

私ども、富浦中学校と富山中学校の再編ということで提案しております。

来年度、令和8年度の小学6年生が28人、5年生が24人、4年生が16人、3年生が14人、2年生が9人、1年生が12人、これは通常学級の子どもの数です。9人という数字も出てきております。あるいは、5年生までは24人なんですけど、4年生以下が10数名という状況になってきております。この10名内外のクラスで中学校生活を送らせていいのかどうか。私どもは再編の協議を皆さんにお願いしているところであります。

この少ない人数で、例えば9人でしたら、球技とかそういったものはできないわ

けですし、いろんな行事、あるいは学習も全て10人程度で進んでいく。こういう状況で中学校生活を送らせてもいい。そういう結論がいただけましたら、私どもはそれに従ってやっていきます。

ただ、隣の富山中学校も人数が少なくなってきました。後で資料をもとに説明申し上げます。そういうわけで、富浦地区も富山地区も少なくなってくる。そういう状況ですので、これは一緒になって、少しでも多くの人数で中学校生活を送らせるのがいいのではないかというのが、私どもの考えであります。

私どもが結論をいただきたいのは、この少ない人数でもいいんだ。理由はこういうわけだ。両方がいただきたいわけでした、アンケートを実施していただきました。大変御苦勞をおかけしたと思いますけど、一人でも多いほうを結論とするということでしたけど、私どもとすると、いろんなところに説明しなくちゃいけないわけですけど、一人でも多くのほうを結論とするということで、かなり厳格にやっていたかかないと、私どもはいろんなところに説明できないわけでした、家庭数が192でありますけど、回答数は200であります。ここで8名分多いわけですね。

こういうわけで、このアンケート自体、一人でも多いほうを結論とする。そういう結論を見出すようなアンケートとしていいのかどうか、ちょっと疑問を感じております。

もう1点は、その理由ですね。理由は、はっきりしたものはまだ出ていないということです。

自由意見の欄がありますので、その自由意見の欄についてまとめていただきたいということを、私どもはPTAの役員の方々をお願いしましたが、もういっぱいいっぱいだということで、それは教育委員会でやってほしいということでしたので、今日のお手元の資料にありますように、皆さん方が書かれた自由意見についてまとめました。これについては後ほど御説明いたします。

こういうような経過の中で、少ない人数で富浦中学校の3年間の生活を送らせていいのか、あるいはいけないのか、その辺のところはまた御議論いただきたい。そんなふうを考えております。

今日いただいた、あるいは明日地区の方々にも説明いたしますけど、それらの意見をもとに、26日に再編検討委員会を開きますので、そこで今の時点の結論が出

ることになると思いますが、繰り返して申し上げますけど、残念ながら、富浦地区も富山地区も少ない人数になっていきます。そういう少ない人数の中で、中学校生活を送らせていいのかどうか。そういうことを頭に置きながら、私どものこの後の説明、あるいは意見交換、そういったものをしていただければ大変ありがたいと思っております。

どうかよろしく願いいたします。

#### 4 説明

進行 続きます、次第の4、説明に移ります。

ここからは、穂積委員長に進行をお願いいたします。

委員長 それでは、次第の4、説明に入ります。

(1)「富浦地区学校再編検討委員会の検討状況について」、(2)「保護者アンケート(自由意見調査)の結果及び今後の検討について」、事務局から一括して説明をお願いいたします。

その後、次第の5、質疑・意見交換に移り、全体を通して、皆様方から御質問や御意見などを頂戴したいと思います。

それでは、事務局からの説明をお願いします。

事務局 それでは、次第の4、説明の(1)「富浦地区学校再編検討委員会の検討状況について」御説明します。

資料1を御覧ください。

今後、富浦中学校の生徒数が減少していくことが見込まれ、学校の集団活動における制限の発生や、教職員の配置数の減少など、教育環境に影響を及ぼすことが懸念されることから、令和5年度に富浦地区学校再編検討委員会を発足し、まずは富浦地区として、富浦中学校と富山中学校を統合するか否か、その方向性の検討をしていただいております。

令和5年11月10日に第1回目の検討委員会を開催し、これまでに7回の会議

が開催されております。会議の合間には、保護者による意見集約なども行われてきました。

教育委員会としては、生徒数を確保するための案として、富浦中学校と富山中学校の統合を提案してまいりましたが、令和5年当初から、災害時や警報時の御心配や、三芳地区を再編に含まないのかという御意見をいただいております。

これについて、非常時の子どもの引渡しについてはルールを定めて対応していることや、三芳地区では民間企業による住宅地造成などの影響もあり、人数減少が緩やかな傾向があることから、今回の再編には含めない考えなどを説明してまいりましたが、依然として同様の御意見をいただいている状況であり、学校再編検討委員会としても結論が出せない状況が続いております。

令和6年度の最後に行われた第5回会議では、保護者委員から、「統合に賛成」と「今はその時期ではない」という2択のアンケートを、小・中学校の保護者に対して行ったということで、その結果報告がありました。未回答数が多かったものの、回答していただいた数字を見ますと、小学校においても中学校においても、「今はその時期ではない」という、統合に消極的な意見が若干多かったという結果でした。

また、この会議の中では、学識経験者委員より、将来的に、富山地区・三芳地区なども含め、いろいろな角度で再編について検討してほしいとの御意見がありました。

資料の2ページ目に入りまして、今年度の協議状況については、第6回会議を開催し、これまでの会議の振り返りを行ったところ、保護者委員から「今回の会議資料を再度保護者に説明し、意見を取りまとめた」との要望があったため、教育委員会も協力する形で保護者説明会を開催することとなりました。

また、事務局からは、三芳地区を含む統合について、将来的には3校での統合を視野に入れることも必要と考えられるものの、現状、3地区の生徒数を収容できる校舎がないことや、特別支援学級の増加によって、以前よりも必要な教室数が増えている状況などを説明し、現状は2校での統合を御協議いただきたい考えを説明しました。

資料の灰色の網掛けになっている内容については、PTA役員が主体となって動いていたものになります。

7月24日に、富浦小・中学校PTA主催の保護者説明会が開催され、教育委員会は説明者として出席いたしました。保護者の参加者は約70名であったとのことでした。

9月11日に、保護者説明会の資料と会議録を保護者に周知し、富浦中学校と富山中学校の2校の統合について、賛成意見・反対意見を募る自由意見調査が行われました。

また、11月10日には、その自由意見調査の結果を保護者に周知し、富浦中学校と富山中学校の2校の統合について賛否を問うアンケートが実施されました。このアンケートで1票でも多いほうを、保護者の意見として検討委員会に報告することを、アンケートに記載したとのことでした。このアンケートの回答数は200あり、賛成が91、反対が109でした。

令和8年1月7日に第7回会議が開催され、保護者代表からアンケート結果の報告がありました。アンケートで反対が上回ったことから、保護者としては富浦中学校と富山中学校の2校の統合に反対とし、検討委員会については解散を求めるとの発言がありました。

また、今後は教育委員会に対し、保護者側が納得し、次に進めるような統合案を提示してもらいたいとの意見がありました。

アンケートにより結論を得ようとした理由については、保護者の代表として統合の是非について決めかねたこと、また、全く話が進まない状態が続いていることから、いずれの結果になろうとも次に進めたいという思いがあったことが説明されました。さらに、アンケートや意見集約の負担が大き過ぎるため、PTAとしてはここで終わりにしたいというお話もありました。

検討委員会では、保護者代表からのこの報告内容について意見が交わされ、「それぞれで話し合っ、これで良いであろうと、話し合いの中で判断をしていく委員会ではないだろうか。もうちょっと考えてもう一回やれないだろうか」と、協議の継続を呼びかける意見や、「このまま小規模になって良いのかということを考えている方は、反対意見の中にもいるのではないか」「統合して生徒数が増え、友人関係が広がったりいろいろな価値観に触れる機会が増えたりすることは、子どもの成長に大きな影響を与える要素ではないか」など、アンケートの内容に踏み込んで、検討

の必要性を訴える意見が、区長代表の委員からあがりました。

教育委員会からも、これまでアンケートの多数決で結論を出したことはなく、アンケートを受け、それをもとに議論し、意見を集約していき、結論を出してきたことを説明しました。

最終的に、保護者代表は態度保留とするとされましたが、これ以上の意見集約は困難であるということで、教育委員会において自由意見調査書を精査し、新たな提案をしてほしいとの意見でした。

これらを受け、富浦地区学校再編検討委員会としては、アンケートの賛否が拮抗していることや、富山地区の学校再編検討委員会では、既に富浦中学校との統合の方向で合意されている点も踏まえると、ここで検討を終了させるのは望ましくないとしつつ、会議の状況を鑑みて、富浦中学校の再編の方向性については、結論を保留することとなりました。

また、保護者により行っていただいたアンケートを教育委員会において精査し、その結果によって新たな提案や、今後の富浦地区の状況の変化により検討を再開できるよう、協議を引き継いでいく方針となりました。

事務局 続きまして、説明の(2)「保護者アンケート(自由意見調査)の結果及び今後の検討について」御説明いたします。

資料2-1を御覧ください。こちらは、PTAのほうで実施いただいたアンケートについて教育委員会で内容を整理し、結果について考察した資料となっています。

ここまでの御説明にありましたように、今年度、富浦小・中学校PTAにおいて行われたアンケートは二つあり、一つは、富浦中学校と富山中学校の2校の統合についての自由意見調査で、もう一つは、富浦中学校と富山中学校の2校の統合について、賛否を問うものでした。

この二つ目のアンケートにおいて、1票でも多いほうを保護者の意見として、学校再編検討委員会へ報告されました。このアンケートの回答数は200件あり、賛成が91件、反対が109件でした。先ほど教育長のほうからも話がありましたが、小・中学校合わせて192の家庭数しかないところ、200件の回答があったことから、小学校と中学校それぞれにきょうだいがいる場合に重複回答が発生したこと

が考えられ、数字として少し正確性を欠くものとなってしまっておりました。

これについては、きょうだいのいる場合には長子側での回答を依頼したとのことですが、全てを管理することは難しいものと思いますし、PTAにおいて確実な家庭数を把握することも困難なことと思います。

厳しい話になってしまいますが、アンケートで決を採る場合、回答数が僅差であればあるほど、その精度を求められることとなってしまいますので、このアンケートの結果というのは保護者の意見の傾向として捉え、統合に対する賛否が拮抗しているという事実は間違いなくあるということを受け止めたいと考えております。

資料の1ページ目の中段、「2. 自由意見調査について」は、第7回の検討委員会において、「自由意見調査に保護者の意見が全て記載されているので、教育委員会で精査してほしい」と、保護者代表から要請がありました。

この調査は、2校の統合について、賛成意見と反対意見に分けて記入を依頼されたもので、回答数は72件あり、賛成意見に記載されたものが27件、反対意見に記載されたものが24件、賛成意見と反対意見どちらにも記載されたものが21件ありました。全く同じ内容、同じ筆跡という、明らかに重複していると判断できたものについては除いた数となっています。

1ページ目の下段の「3. 自由意見調査の回答内容」には、記載されている意見の抜粋を載せております。

賛成意見については、賛成意見のみ書かれたものと、賛成・反対どちらも記載されたもののうち賛成意見に書かれたものから抜粋しています。資料2-2に、もう少し細かく載せておりますので、後ほど御参考にしていただければと思います。

賛成意見の内容を見ますと、生徒数が増えることで、子どもの成長に良い影響や効果があると考えられる内容や、行事や部活動の活発化を期待するなど、普段の学校生活、教育環境をより良くすることを念頭に書かれた意見が多くありました。また、賛成意見の中にも、通学路などで不安な点はあると書かれた方もいらっしゃいました。

続いて、反対意見については、いくつかの傾向に分けることができました。これは、反対意見のみ記載されたものと、賛成・反対どちらも記載されたもののうち反対意見に書かれたものから抜粋しています。

反対意見に書かれた内容にも、学校統合そのものは否定していない意見が多くありました。賛成意見の中に不安を書いた方がいたように、統合による効果は理解できるものの、様々な要因で悩んでいらっしゃる方が多いことが伺えました。

反対意見に記載したものの、統合には賛成・または統合を否定していないと捉えられる意見には、大きく2つのパターンがあり、一つ目は、三芳地区などを含めた、現在の統合案よりもさらに広範囲での統合を望む意見というのが11件、二つ目は、通学路への不安などを持つ意見が15件ありました。

また、反対意見として、統合への賛成部分が認められない意見、ものによっては統合を否定しないと読み取れるような微妙なラインのものも含まれますが、その内容を見ますと、富山地区への統合となった場合について、災害時・警報時の不安や、通学距離増加に対する不満、送迎の不便さなどに関する意見が5件。学校の位置や市への不満、その他、富浦地区の生徒数は増やせないのかなど、様々な理由から反対するものが6件。少人数の学校が良いと考えるものが2件。

また、その他については、賛成・反対両方記載されたもののうち、以上の分類以外の反対理由の記載があったものとして、5件。統合の賛否について決めかねるといったものが1件ありました。

次の4ページに移りまして、「4. 自由意見調査の結果からの見解」としまして、円グラフを載せておりますが、統合の是非について着目してみますと、賛成意見のみ記載された方が27件、賛成意見と反対意見の両方を記載した方と、反対意見に記載したけれども統合そのものは否定していなかった方が、合わせて31件。これらを合わせると、およそ8割の方が、中学校の統合に関心を寄せていることわかります。

次に、自由意見調査の回答内容について着目したい点として、点線で囲っております。賛成意見には、統合により生徒数が増えることが教育環境の改善に、そして子どもの成長に良い影響を与えると考えるものが多くあります。統合することのメリットの部分について多くの方が理解し、肯定的に捉えていることが伺えます。この内容だけ見ても、中学校の再編に取り組んでいくことは必要ではないかと考えます。

反対意見には懸念点も多く寄せられておりますが、通学路の経路であったり、統

合の時期など、今後の会議の中で課題解消に取り組む予定の内容も含まれておりますし、仮に今後の会議で、その課題が解消できなければ、統合が難しいという結論になる場合もありますので、いずれの結果となっても、教育委員会としては、学校再編についての結論が得られるよう、検討を進めていただきたいという立場でおります。

最後に、資料3を御覧ください。

先ほど教育長のほうも少し触れましたが、こちらは、今年1月末時点で教育委員会のほうで把握している、令和8年度4月からの児童・生徒数見込みとなっております。上の表が富浦地区の子どもたちの数になりますが、新年度の小学4年生以下は、一学年20人以下の人数となる見込みとなっております。特別支援学級の人数を除いた通常学級の人数を、黄色の塗りつぶしでお示ししておりますが、小学2年生の通常学級は9人となる予定です。この子たちが中学校に進学するまで、あと5年です。他の学年に関しても、例えば私立へ進学する御家庭もありますので、見えている数字以上に人数が減ってしまう可能性もあります。

数年後の中学校の人数を考えますと、教育委員会としては引き続き、一定の生徒数を確保できるよう学校統合をすることが望ましいと考えております。新たな案というのは、現時点でお示しできるものはございませんが、ここで検討が止まってしまわないよう、来年度以降も、富浦地区の皆様にご協力をお願いしていきたく考えております。

以上で説明を終わります。

委員長 ありがとうございます。

## 5 質疑・意見交換

委員長 説明が終わりました。それではこれより、次第の5、質疑・意見交換に移りたいと思います。

ただ今の説明に対して、御質問・御意見やその他、聞きたいことがある方については、挙手をお願いいたします。

事務局がマイクをお持ちしますので、自席にてお待ちください。マイクが届きましたら、お名前を述べてから、御発言をお願いいたします。どんなことでも結構です。御質問・御意見等ございませんか。

せっかくの機会ですので、ただ今説明をいたしましたけども、これらについて皆さん方の御発言をお願いしたいと思います。

ただ今、事務局のほうから皆さん方のいろいろ御苦勞なされたアンケート、こちらについても、細かくデータ分析したものをお示したものでございます。

どんなことでも結構です。せっかくの機会ですから、御発言をお願いしたいと思います。

はい、どうぞ。ちょっとお待ちくださいね、今マイクをお持ちします。

保護者 保留ということですが、保留というのが具体的にはイメージが湧かないんですが、来年度も同じような委員会をもって、それで審議を続けていくということが保留ということなんでしょうか。それとも、何年かおいてっていう保留なんでしょうか。ちょっといまいわからないので、教えていただきたいです。

委員長 ただ今の保留ということについての、この後どのような形で進められるかという話ですね。

この委員会で結論を出したのは、先ほどいろいろ御説明いたしましたように、統合する・統合しない、この答えが非常に拮抗している。パーセンテージで申し上げますと、46%の方が賛成、54%の方が反対。こういった、反対あるいは賛成それぞれの意見の中でも、さらに細かく分析していくと、統合というものをやはり考えなければいけないという思いをしながら、しかし今の時点では反対せざるを得ない、いろんな内容が含まれております。

そうしますと、これらを数が多いから・数が少ないから、それによって結論付けるというのは、当委員会としては、非常に皆さん方の気持ちを大事にしなければいけないという思いが、我々の会議進行の中には絶えずあります。

そんなわけで、新年度になりますと、教育委員会のほうでいろいろと富山と富浦だけの統合案ということをお示したわけですけども、また新たにそれ以上のもの

があるのかどうなのか。こういったものもさらに検討を加えながら、今後生徒数が減少していくのをいかに食い止めながら、子どもたちの教育環境を向上させていくか。いかにして、子どもたちに快適な教育環境を提供できるのか。この辺はさらに検討していこうというのが、今現在の我々の考えでございます。以上です。

あとは、私の補足部分を、教育長のほうから補足させていただきます。

教育長 資料3を御覧いただきたいと思います。

私ども、このまま再編検討委員会の協議を進めていきまして、統合ということになったとしても、おそらく早くても3年後、あるいは4年後になるかと思えます。ということは、今から協議を3年間・4年間進めていって、その表にあります、小学3年生の16人の子どもたちが中学校に入るときに、統合中学校の開校ですね。もう少しずれてきますと、小学2年生の通常学級の9人の子どもたちが、中学校に入学する段階になると思えます。今から話し合っていっても、3年ないし4年はかかる。富浦地区で結論が出ても、富山地区との合同の検討委員会を開いていきますので、さらに時間がかかるわけですね。

ですから、今はそのときではない・その時期ではないというようなことも意見の中にありますけど、私どもの「今」というのは、3年ないし4年先を考えています。3年ないし4年先のことの結論を出していくためには、今から検討を進めていって、地区の皆さん、あるいは保護者の皆さんから随時意見をいただきながら、結論を出していかなくちやいけないというプロセスがありますので、非常に時間のかかるものだという事は御理解いただきたいと思えますし、継続して再編検討委員会で協議をしていっていただきたいという考えでおります。

保護者 では、この会議を開く開催のスピードで、今までと同じような委員会の開催状況で、このまま審議を続けていくということでしょうか。

はい、わかりました。

教育長 私どものほうがどんなに急いでも、月2回、年間5回ですね。

再編検討委員会が年間5回開かれて、その間に地区への説明会・保護者への説明

会を必要に応じてやっていくという。そうなってきましたと、年間5回はかなり無理かなという進め方になりますので、思った以上に時間がかかってくるのが、この再編についての協議になってきます。

委員長 よろしいでしょうか。

どうぞ、他にも御意見があったら、遠慮なせずに。

はい、どうぞ。ちょっとお待ちください。

お願いします。

保護者 今の話を聞いていて、早くても話し合いをして3・4年近くかかる。その先を考えているってことなんですけど、反対意見がずっと続いていて、この話し合いがずっと続くとなったら、もっと時間がかかるというふうな認識でも大丈夫でしょうか。

教育長 冒頭に申し上げましたように、反対でしたら、少ない人数で中学校生活を送らせてもいいんだという結論をいただければ、それは私どもは受け止めるしかないと思っています。

ただ、現在の状況だと、反対の人たちが多からということ、なぜ反対なのか。その辺がまだ明らかになっていないので、その理由も明らかになって、統合しないで、富浦地区はこの少ない人数でも子どもたちに中学校生活を送らせるんだ。そういうような結論がいただければ、その時点で、私どもは富浦地区の結論としていただくことになるかと思います。

保護者 ありがとうございます。

反対意見で統合に反対している人ってそんなに多くないと僕は思っていて、反対意見としては、災害時とか交通の便とか送り迎えとかっていうところが、たぶん大半を占めているとは思いますが、これについての良くしていこうという考えとか会議とかって、そちらのほうではやってくれているのでしょうか。

こちらの保護者のほうの意見ばかりを参考にされているみたいで、考えるっておっしゃってくれてはいるんですけど、教育委員会のほうでも何か考えて、こういっ

た案はどうでしょうっていうのが聞かれなかったんですが、そういうところが知りたいです。

委員長 教育長、よろしいですか。

教育長 はい、ありがとうございます。

災害時の対応というのは、第1回の説明会のと時から、私どもは御質問・御意見をいただいております。その都度説明しております。

これは富浦中学校に限らない問題でありまして、どこの地区においても対応しなくちゃいけない問題でありまして、これについては子どもたちの安全というのは最優先のことでありまして、万全の態勢をとってやってきましたし、今後もやっていく。そういう説明はしております。

私どももこれ以上の説明というのはできませんので、具体的にはスクールバスを走らせるとしたら、どういうルートで、どこに停留所を置いて、あるいは災害時どうするかとか、そういったことについても、保護者を含めた専門部会を開きまして検討していきますので、具体的な問題・課題については、その場でいただいて、これまでも解決していますので、今の時点ではそういうことで御了解いただくしかないと思っております。

それともう1点ありましたね。通学時間とか、そういったものについては、この富浦・富山に限らず、バスでおおむね30分程度ですね。それで現在もやっております。南房総中あるいは嶺南中も、その範囲でやっておりますので、当然その範囲の中で校舎をどこにするとか、そういったものについては、私どもは提案するつもりであります。

保護者 最後に一個だけいいですか。

3年かかるって今おっしゃっていたので、3・4年後くらいには、今お話いただいた、どこに校舎を建てるのか、どういったルートで30分以内で走らせるのかとかというのは、結論がほぼ出るのではないかっていう認識でいいですか。

教育長 富山地区は、富浦地区と再編の方向でということで結論が出ています。

富浦地区でも同じように、富山地区と再編していこうという結論・方向性が出ましたら、両地区の合同の再編検討委員会を開いていきます。

その時点で、校舎はどこにするとか、そういったものについて、私どものいろんな条件の中でここがいいだろうということで、A案・B案とか、そういったような形で提案することになって、それについての議論は、両地区合同の再編検討委員会が始まってからの時点で提案いたします。ですから、それについての協議は、また丁寧にしていただく考えでいます。

保護者 ありがとうございます。

委員長 よろしいですか。

今回のアンケートの中でも、災害時の対応はどうなるんだ。あるいは、ルートはどのような走行になるのか。こういった具体的なものについては、ただ今教育長のほうから、富山・富浦それぞれが前に進みましょうといった段階で、このルートをこうする、災害時にはこうすると、具体的なものがさらに細かく検討課題として挙がってくると思います。それまで他の地区でも、ただ今教育長がお話ししましたように、児童生徒の安全をまず第一にして、物事を考えて処理している。こういう実態は一つ御理解いただきたいと、このように思っております。

他にどうぞ。どんな御質問でも結構です。お答えさせていただきたいと思いますので、御発言をお願いしたいと思います。

少々お待ちください。

保護者 今回は富浦・富山の生徒数が載った資料だけでしたが、前回の保護者会の中では、三芳地区まで載った資料があったと思います。

前回の協議の中で、仮に富山・富浦地区の統合がまとまった時点で、すぐに三芳との統合の会議に入らないと、時間がないのではないかという話が出たと思うんですけども、今回保留にされて、来年度の小学2年生・3年生のところへ合わせていくとなると、三芳地区の人口っていうのは、前回出された推移でいくと、統合の

時期に当たるのかとは思いますが、その辺はどう考えていらっしゃるのでしょうか。

教育長 今日資料を用意しませんでしたけど、三芳地区を入れますと、おそらく学年2クラス(※)になるのかという。そうやってきますと、教室の数は、現在の富浦中・富山中・三芳中のどの校舎を使っても、足りない状況になります。

財政的にも、あるいは将来的にも、新しく校舎の足りない部分を建ててということとはちょっと考えにくい状況ですので、一挙に3校が統合するというのは、数字の上から、私どもは無理だと判断しております。

大変残念ですけど、富浦中と富山中が統合して、新しい学校の子どもの数もさらに減っていく。三芳の子どもも減っていくという状況になったら、それを見通して、また再編検討委員会で協議していくということになるかと思います。

(※正しくは、3クラス)

委員長 今後も生徒数の推移を当然考えた上でのこの後の議論になってくると思うんですけども、今教育長が説明しましたように、第一段階としては、富山との統合というところで考えていったらどうかというのが、今現在のこれまで提案した内容でございます。

ただいずれにしても、3校合わせても、将来的には数はだんだん減ってくるというのは、皆さん方も想像されていると思うんですけども、そういうような状況が今の安房管内、特に我々の身近な生徒数の減少というものが、もう身に迫ってきている。これが実態でございます。

保護者 ありがとうございます。

ただ、懸念事項としては、「やっと統合が決まった。さあ、三芳も減ってくる見通しが立ったから、また会議を開きましょう」では、互いに負担が増えてくると思うので、そこら辺も見通した運営の仕方をしていただいたほうが、皆さんの負担が少しずつ減ってくると思うんですが、その辺も検討いただけたら嬉しいと思います。

教育長 隣の館山市の例ですけど、小学校は房南小学校を抜かしますと、北条小と館山小の二つにするという。今年度末で船形小・那古小がなくなって、来年から那古船形小ということになるかと思います。その後、何年かしたら、今度は北条小学校にどのような見通しがあるわけですね。

やはりその理由の一つとしましては、教員の問題もあります。一挙に二つの学校、あるいは三つの学校をなくすということになりますと、学校には一人職があります。校長・教頭・養護教諭・事務職員。今、南房総だけではなくて、館山も鴨川も学校統合を進めておりますので、その数が増えますと、その人たちを安房地区外に異動させるとか、そういうような作業も出てきまして、非常に難しい。これは子どもたちには関係のない話なんですけど、学校を維持していくためにはどうしても解決していかなくちゃいけないものなので、その点からも徐々にやっていくしかないということも、御理解いただければと思います。

それともう一つは、新しい統合中学校になって、そこに三芳中学校が入ることになれば、おおむね皆さん方の御理解は早くいただけるのではないかというふうにも考えております。

委員長 よろしいでしょうか。

保護者 はい、ありがとうございました。

委員長 他に御意見はいかがですか。どんなことでも結構です。

今回は皆さん方のアンケート結果、それを数的に表現しておりますので、今日にしたということで、なかなか難しい問題があるのかと思いますけどね。この場でどうしても質問がなければ、教育委員会のほうへ直にお尋ねしていただき結構です。

ただ、この段階で質問があればお受けさせていただきたいと思います。

《しばらくの間》

委員長 これまで質問いただいたことに関しては、教育長のほうから回答させていただきましたけれども、こういった内容でよろしいでしょうか。

特に皆さん方のほうから御意見、そういったものがないとするならば、意見交換を終えたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

保護者 どうも。引っ越してきたばかりで、この話し合いに参加すること自体が初めてなんですけど、子どもたちの意見ってあるんですか。以前にやっているのかもしれませんが、今実際に就学している子どもたちに聞いてみたりとか、そういう活動ってしたことはあるんですかね。

教育長 これまでいくつか学校統合をしてきましたけど、子どもたちの意見は一切聞いていません。

例えば、今白浜小学校で課題になっている、4人・5人の学年があるわけですね。そういった4人・5人で小学校生活を送ることが、小学校生活自体にどういう影響があって、大人になってどういう影響が出てくるのか。そういうことを子どもたちに考えさせるのは、私は無理なことだと思っています。

中学校についても同様であって、私ども大人は中学校生活を経験しています。中学校生活がどういうものかというの理解しているわけで、それを踏まえて、子どもたちの数が10人程度の中学校生活がどういうものかというのは、容易に考えられるわけですね。ですから、大人の責任として、学校統合の問題については結論を出していくという考えで、これまでやってきております。

委員長 よろしいですか。

他に御意見・御質問等ございますか。

今までもいろいろと7回の会議を開いた中で、御質問等を受けております。その都度、御解答はさせていただいているわけなんですけども、ないようであれば、これで終了したいと思います。

後日、何かお気づきになった点、もっと知りたい点等があったならば、直接事務局へお問い合わせいただければと思っております。

それでは、次第の5、質疑・意見交換を終わらせていただきます。進行を事務局にお返しいたします。

進行 穂積委員長、進行ありがとうございました。

## 6 その他

進行 次第の6、その他ですが、全体を通して何か御発言のある方はいらっしゃいますか。

《しばらくの間》

## 7 閉会

進行 それでは、以上をもちまして、富浦地区学校再編に関わる地区説明会を閉会いたします。

御協力ありがとうございました。